

## 第 2 章 産業廃棄物の排出及び処理状況の推計結果

### 第 1 節 結果の概要

平成 16 年度の 1 年間に県内で発生した産業廃棄物の発生量は 12,275 千トで、有償物量は 161 千ト（発生量の 1.3%）、排出量は 12,114 千ト（同 98.7%）となっている。

排出量 12,114 千トのうち、排出事業者自らの中間処理による減量化量（8,108 千ト）及び再生利用量（1,847 千ト）を除いた搬出量は 2,160 千ト（排出量の 17.8%）となっている。搬出量 2,160 千トは、自己最終処分量（41 千ト）及び委託処理量（2,109 千ト）に区分される。委託処理量 2,109 千トのうち、委託中間処理による減量化量が 152 千ト、再生利用量が 1,703 千ト、最終処分量が 253 千トとなっている。

県内で発生した産業廃棄物の流れをまとめると、再生利用量が 3,550 千ト（排出量の 29.3%）、減量化量が 8,260 千ト（同 68.2%）、最終処分量が 294 千ト（同 2.4%）となっている。

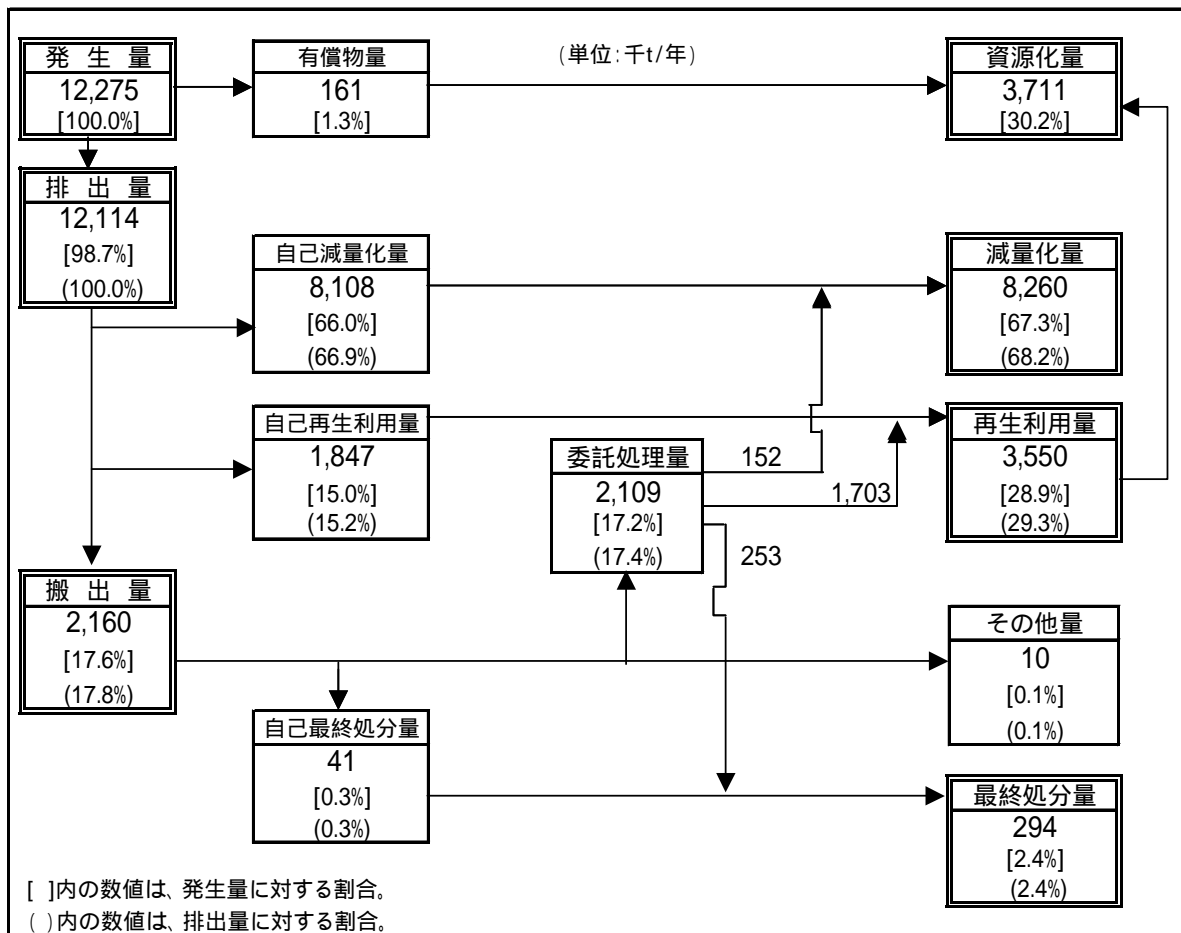


図 2-1-1 発生及び処理状況の概要

## 第2節 廃棄物の排出・処理状況

### 1. 排出から処理・処分までの流れ

#### (1) 発生量及び排出量

平成16年度の1年間に県内で発生した産業廃棄物の発生量は12,275千トであり、有償物量は161千ト、排出量は12,114千トとなっている。排出量を種類別にみると、汚泥が7,553千トと最も多く、次いで、家畜ふん尿の2,234千ト、がれき類の1,350千ト、木くずの213千ト等となっている。

#### (2) 再生利用量

再生利用量は、3,550千トとなっており、再生利用率(排出量に対する割合)は29.3%である。種類別にみると、がれき類が1,298千トで最も多く、次いで、家畜ふん尿が1,199千ト、汚泥が293千ト等となっている。

#### (3) 最終処分量

最終処分量は、294千トとなっており、最終処分率(排出量に対する割合)は2.4%である。種類別にみると、汚泥が98千トで最も多く、次いで、がれき類が50千ト等となっている。

なお、汚泥は排出事業者が脱水や乾燥等の中間処理を行って大幅に減量化している。また、がれき類は路盤材等に資源化が図られているが、排出量自体が多量なため最終処分量の多い廃棄物となっている。

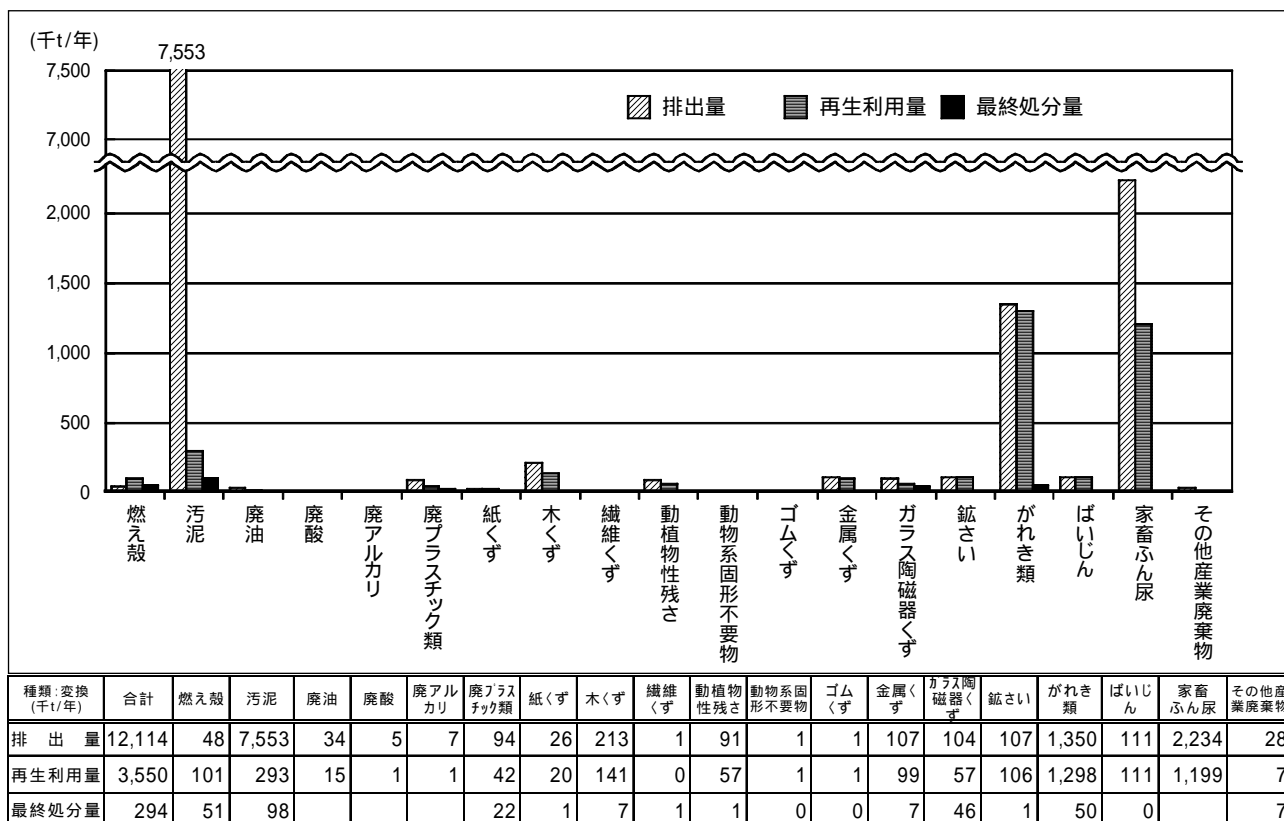


図 2-2-1 産業廃棄物の種類別の発生量、資源化量、最終処分量

産業廃棄物の発生から処理・処分の流れをまとめると、図 2-2-2 のとおりである。

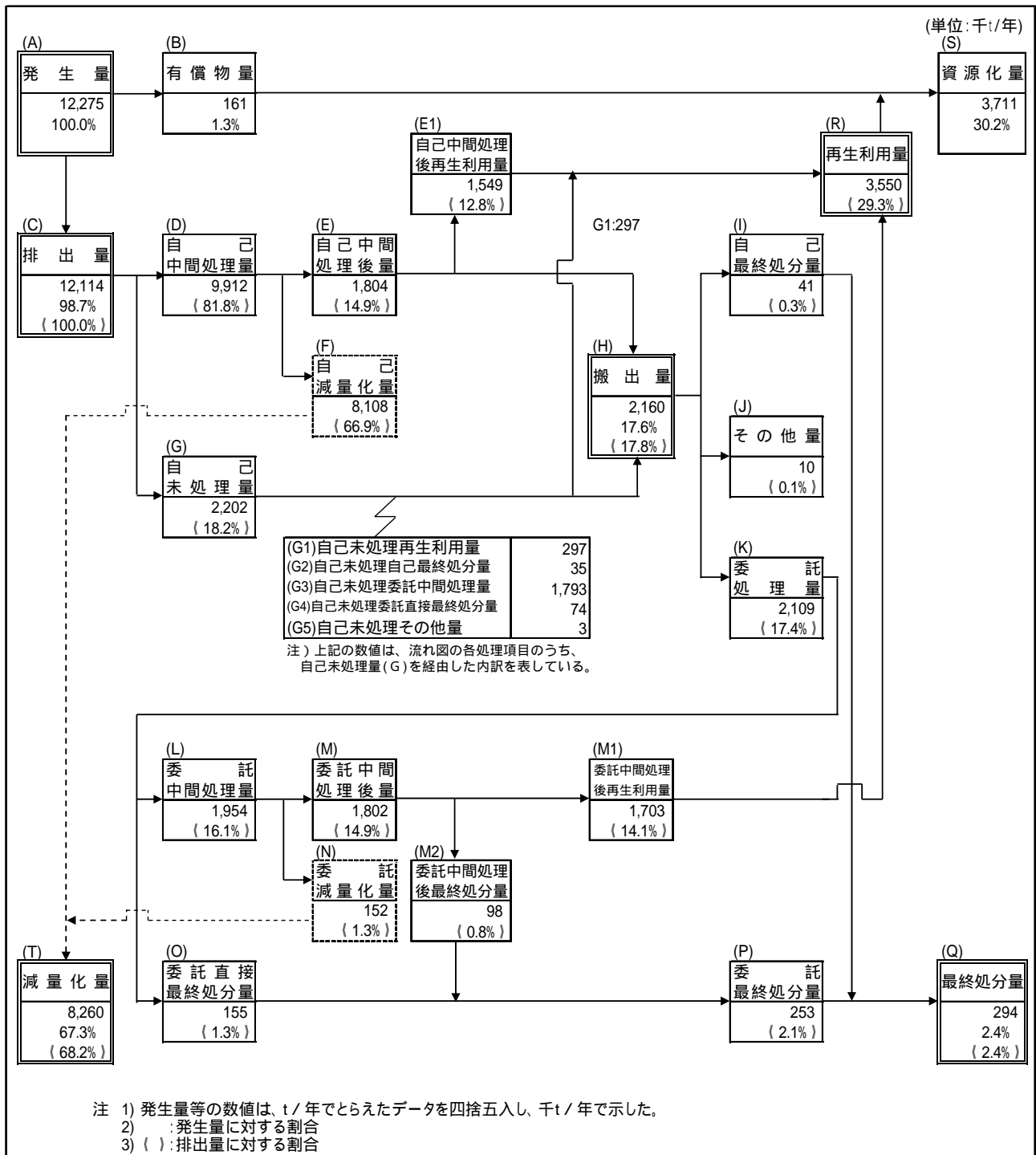
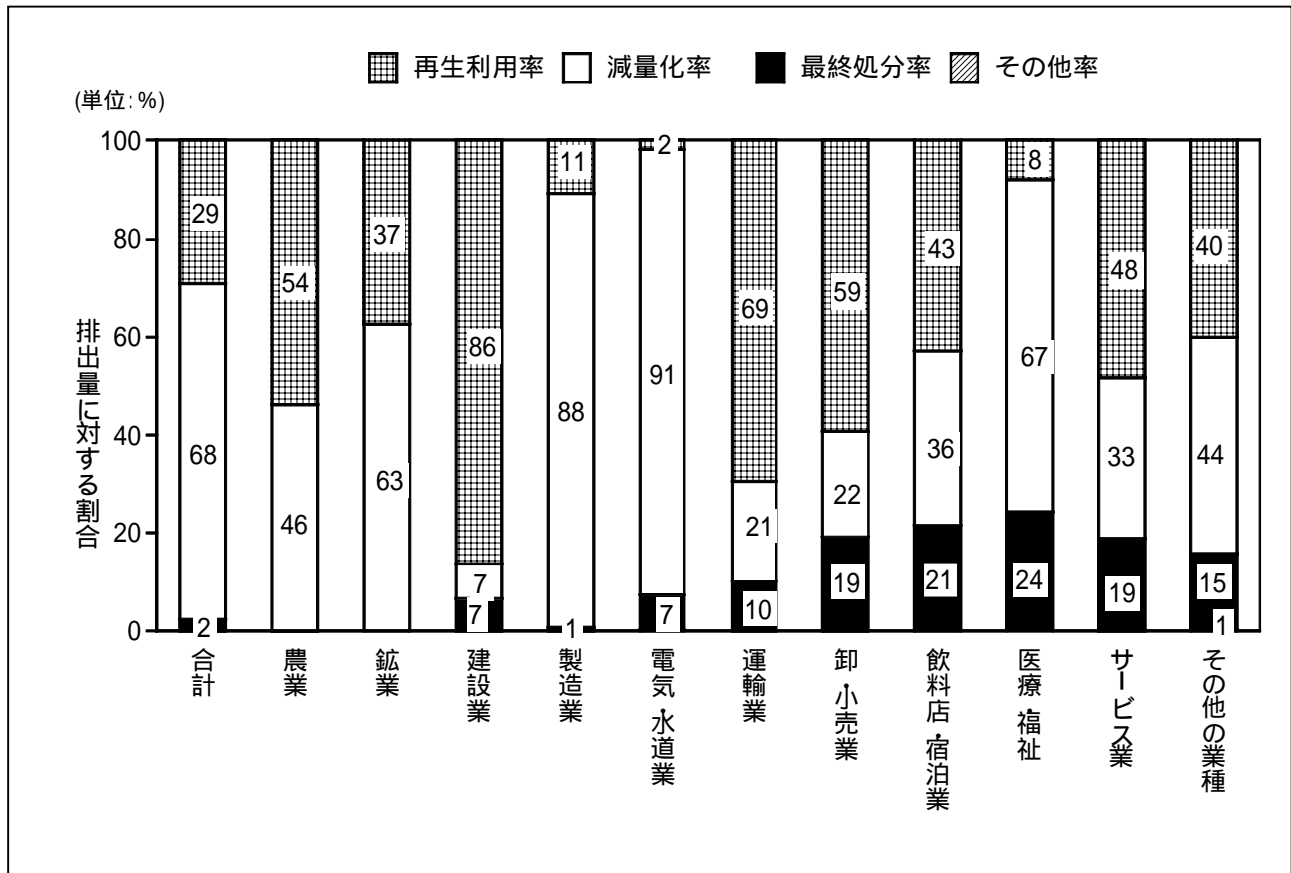


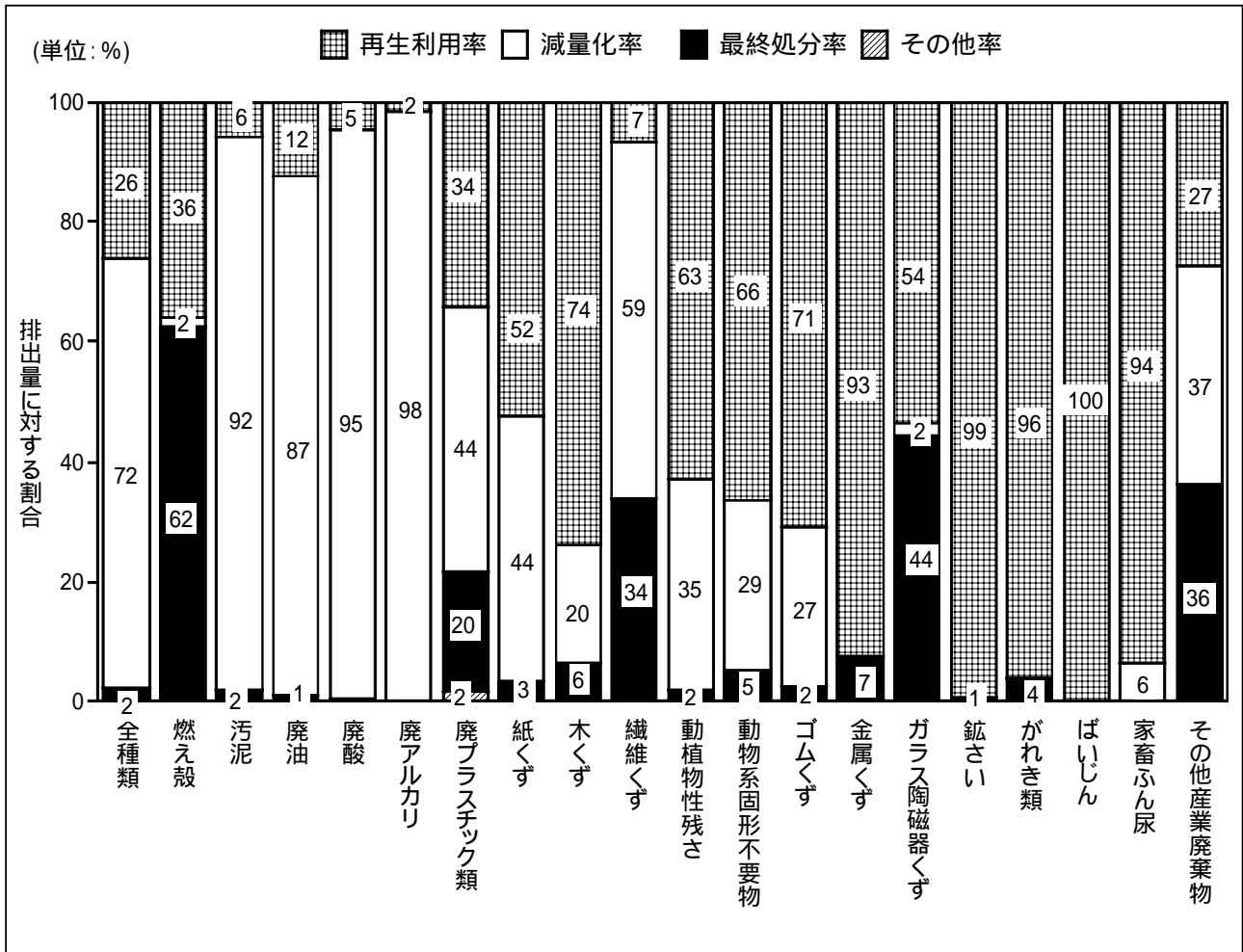
図 2-2-2 発生から処理・処分までの流れ

排出量に対する再生利用量、減量化量、最終処分量の構成比を業種別、種類別にみると、  
 図 2-2-3 及び図 2-2-4 のとおりである。



業種 (千t/年)	合計	農業	鉱業	建設業	製造業	電気・ガス・ 水道業	運輸業	卸・小売業	飲料店・宿 泊業	医療・福祉	サービス 業	その他の 業種
排 出 量	12,114	2,236	596	1,619	6,030	1,518	11	52	12	17	22	1
再 生 利 用 量	3,550	1,200	223	1,395	652	25	8	31	5	1	10	0
減 量 化 量	8,260	1,034	374	113	5,321	1,381	2	11	4	12	7	0
最 終 処 分 量	294	0		111	57	104	1	10	3	4	4	0
そ の 他 量	10	2		0	1	8	0	0			0	0

図 2-2-3 業種別の排出量に対する再生利用量、減量化量、最終処分量の構成比



種類:無変換 (千t/年)	合計	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	動植物性残さ	動物系固形不要物	ゴムくず	金属くず	ガラス陶磁器くず	鋳さい	がれき類	ばいじん	家畜ふん尿	その他産業廃棄物
排出量	12,114	48	7,553	34	5	7	94	26	213	1	91	1	1	107	104	107	1,350	111	2,234	28
再生利用量	3,550	17	365	15	2	1	42	20	141	0	66	1	1	99	57	106	1,298	111	1,199	7
減量化量	9,738	1	5,804	104	37	84	54	17	38	1	37	0	0		2		1		81	10
最終処分量	294	30	104	1	0	0	24	1	12	1	2	0	0	8	47	1	52	0		10
その他量	10	0	8	0	0		2	0	0	0	0			0	0					

注1) 例えば、廃酸、廃アルカリ、廃油等に最終処分量が表示されているが、実際には、焼却等により燃え殻となったものが最終処分されている。しかし、この表における資源化量、最終処分量はこのような中間処理等による廃棄物の種類の変化を考慮していない。

図 2-2-4 種類別の排出量に対する再生利用量、減量化量、最終処分量の構成比

## 2. 排出の状況

### (1) 業種別の排出状況

排出量を業種別にみると、製造業が6,030千ト(49.8%)で最も多く、次いで、農業が2,236千ト(18.5%)、建設業が1,619千ト(13.4%)となっており、この3業種で全体の81.7%を占めている。(図2-2-5)

製造業は排出量の大部分を製紙工場から排出される汚泥が占めており、自己中間処理(脱水、焼却等)により大幅に減量されるため、搬出量では全体の23.6%となっている。

農業は排出量の大部分を畜産農業から排出される家畜ふん尿が占めており、自己で堆肥化等の再生利用がされているため、搬出量は少なくなっている。

建設業は、排出量の大部分をがれき類が占めている。がれき類は基本的に中間処理による減量はしないため、搬出量で見ると、最も多い業種となっている。

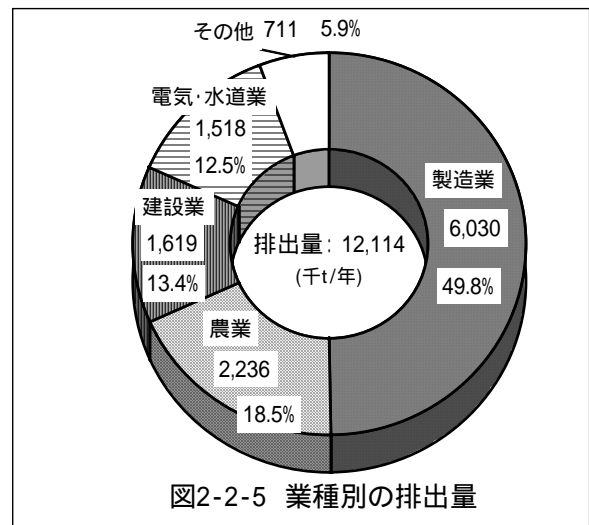
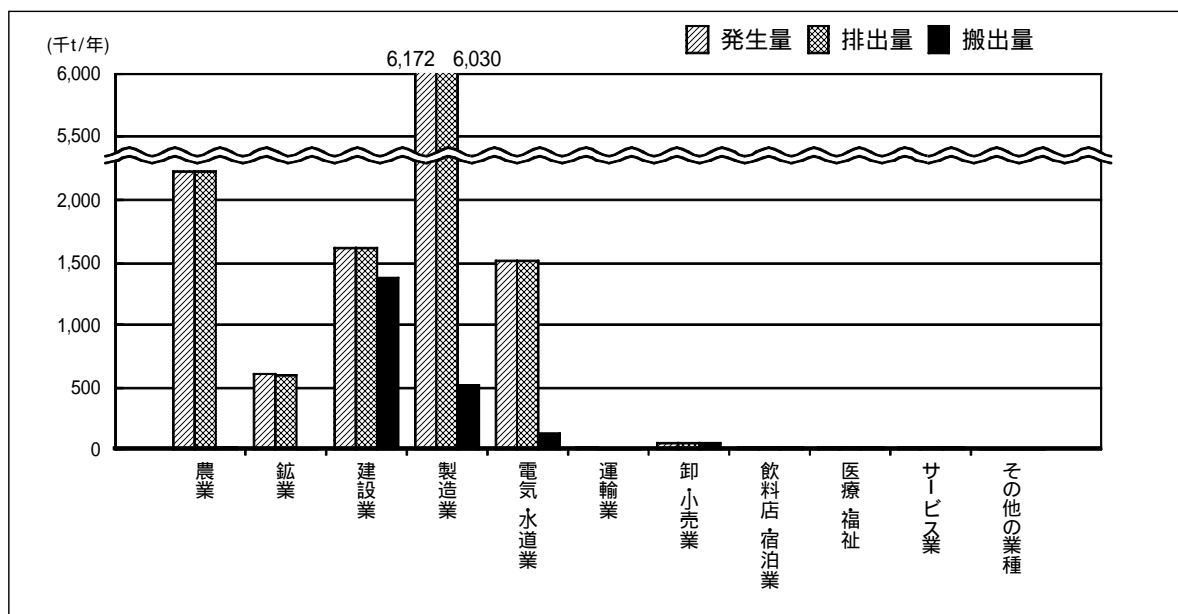


図2-2-5 業種別の排出量



業種 (千t/年)	合計	農業	鉱業	建設業	製造業	電気・水道業	運輸業	卸・小売業	飲食店・宿泊業	医療・福祉	サービス業	その他の業種
発生量	12,275 (100%)	2,236 (18.2%)	605 (4.9%)	1,623 (13.2%)	6,172 (50.3%)	1,518 (12.4%)	14 (0.1%)	55 (0.4%)	12 (0.1%)	17 (0.1%)	23 (0.2%)	1 (0.0%)
排出量	12,114 (100%)	2,236 (18.5%)	596 (4.9%)	1,619 (13.4%)	6,030 (49.8%)	1,518 (12.5%)	11 (0.1%)	52 (0.4%)	12 (0.1%)	17 (0.1%)	22 (0.2%)	1 (0.0%)
搬出量	2,160 (100%)	16 (0.7%)	0 (0.0%)	1,385 (64.1%)	510 (23.6%)	136 (6.3%)	11 (0.5%)	52 (2.4%)	12 (0.6%)	17 (0.1%)	20 (0.2%)	1 (0.0%)

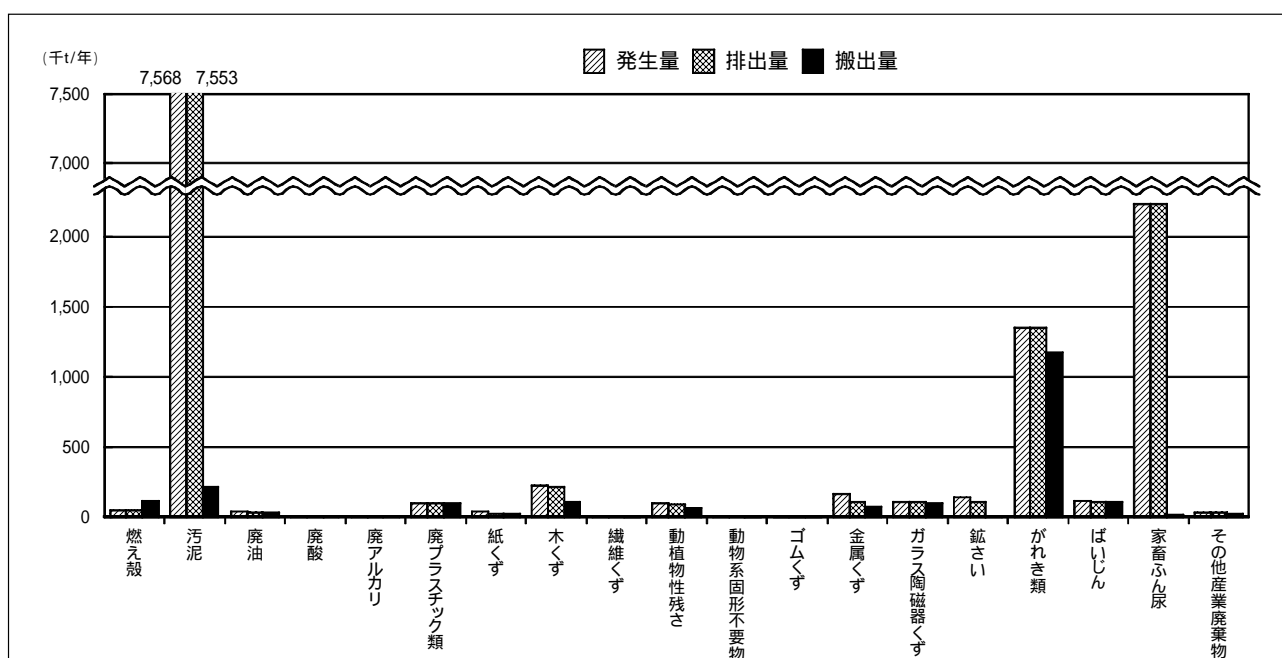
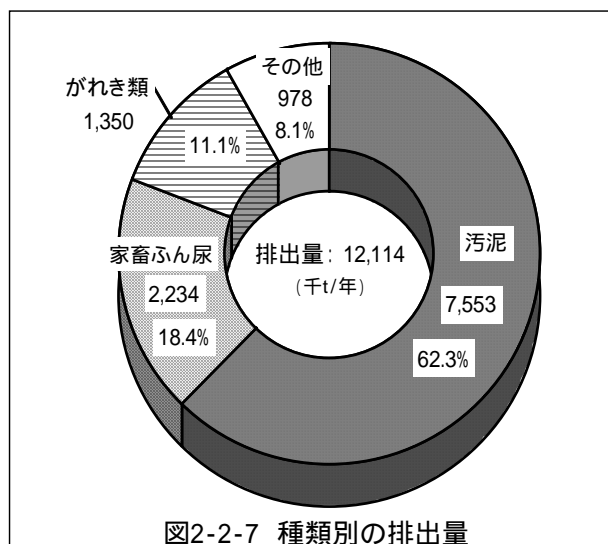
図2-2-6 業種別の発生量、排出量、搬出量

## (2) 種類別の排出状況

排出量を種類別にみると、汚泥が7,553千ト(62.3%)で最も多く、次いで、家畜ふん尿が2,234千ト(18.4%)、がれき類が1,350千ト(11.1%)等となっている。(図2-2-7)

汚泥は排出量に占める割合は62.3%と高いが、排出事業者自らによる脱水、焼却等の処理により、大幅に減量されて事業所外に搬出される。このため、搬出量全体の割合で見ると9.7%となっている。

(図2-2-8)



種類	発生量	排出量	搬出量
燃え殻	48 (0.4%)	48 (0.4%)	114 (5.3%)
汚泥	7,568 (61.7%)	7,553 (62.3%)	210 (9.7%)
廃油	39 (0.3%)	34 (0.3%)	32 (1.5%)
廃酸	6 (0.0%)	5 (0.0%)	5 (0.2%)
廃アルカリ	7 (0.1%)	7 (0.1%)	7 (0.3%)
廃プラスチック類	97 (0.8%)	94 (0.8%)	93 (4.3%)
紙くず	39 (0.3%)	26 (0.2%)	26 (1.2%)
木くず	224 (1.8%)	213 (1.8%)	105 (4.9%)
繊維くず	1 (0.0%)	1 (0.0%)	1 (0.1%)
動植物性残さ	100 (0.8%)	91 (0.7%)	63 (2.9%)
動物系固形不要物	1 (0.0%)	1 (0.0%)	1 (0.0%)
ゴムくず	1 (0.0%)	1 (0.0%)	1 (0.0%)
金属くず	166 (1.4%)	107 (0.9%)	75 (3.5%)
ガラス陶磁器くず	109 (0.9%)	104 (0.9%)	95 (4.4%)
鋳さい	138 (1.1%)	107 (0.9%)	5 (0.2%)
がれき類	1,353 (11.0%)	1,350 (11.1%)	1,175 (54.4%)
ばいじん	114 (0.9%)	111 (0.9%)	111 (5.2%)
家畜ふん尿	2,234 (18.2%)	2,234 (18.4%)	13 (0.6%)
その他産業廃棄物	28 (0.2%)	28 (0.2%)	26 (1.2%)
<b>合計</b>	<b>12,275 (100%)</b>	<b>12,114 (100%)</b>	<b>2,160 (100%)</b>

図2-2-8 種類別の発生量、排出量、搬出量

### 3. 再生利用の状況

#### (1) 種類別の再生利用状況

再生利用量は 3,550 千トであり、排出量に対する割合は 29.3% である。

種類別にみると、がれき類が 1,298 千ト（36.6%）で最も多く、次いで、家畜ふん尿が 1,199 千ト（33.8%）、汚泥が 293 千ト（8.3%）、木くずが 141 千ト（4.0%）となっている。

有償物量は 161 千トであり、金属くずと鋳さいの量が多くなっている。

（図 2-2-9、図 2-2-10）

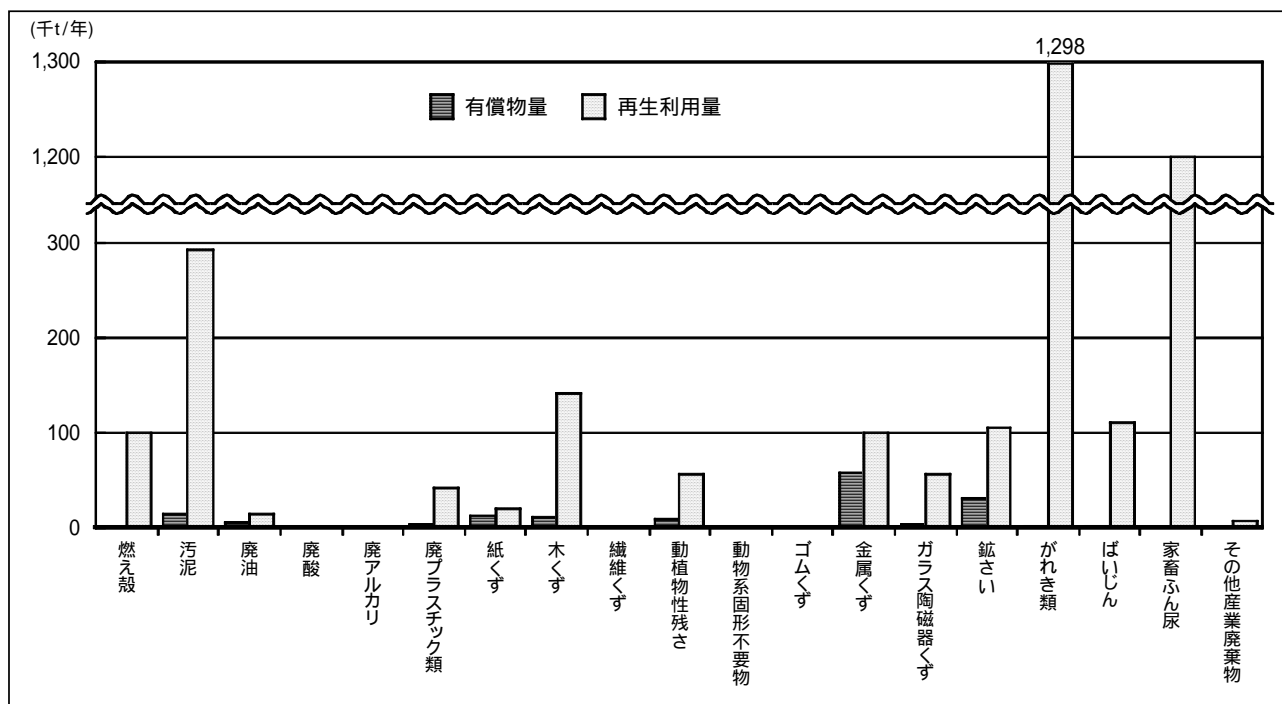
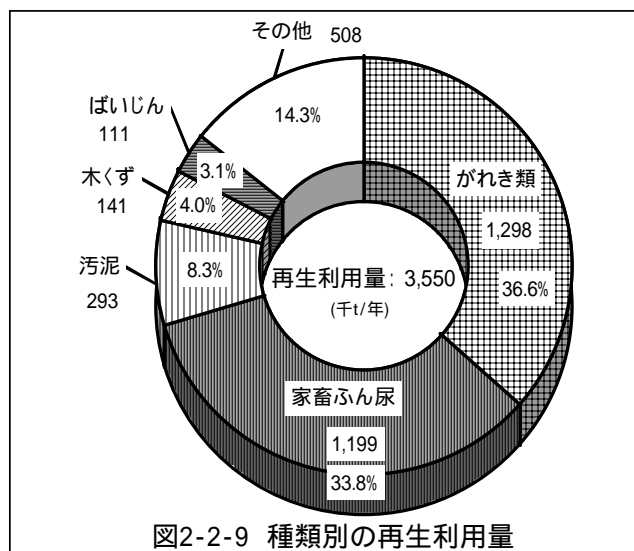


図 2-2-10 再生利用の状況



#### 4. 最終処分状況

最終処分量は 294 千トンとなっており、排出量に対する割合は 2.4% である。

種類別にみると、汚泥が 98 千ト (33.5%) と最も多く、次いで、燃え殻が 51 千ト (17.5%)、がれき類が 50 千ト (17.1%) 等となっている。

最終処分先を主体別にみると、処理業者による最終処分が 247 千ト (最終処分量の 84.0%) と最も多く、市町村等での最終処分が 6 千ト (同 2.0%)、排出事業者自らの自己最終処分が 41 千ト (同 13.9%) となっている。(図 2-2-11、図 2-2-12)

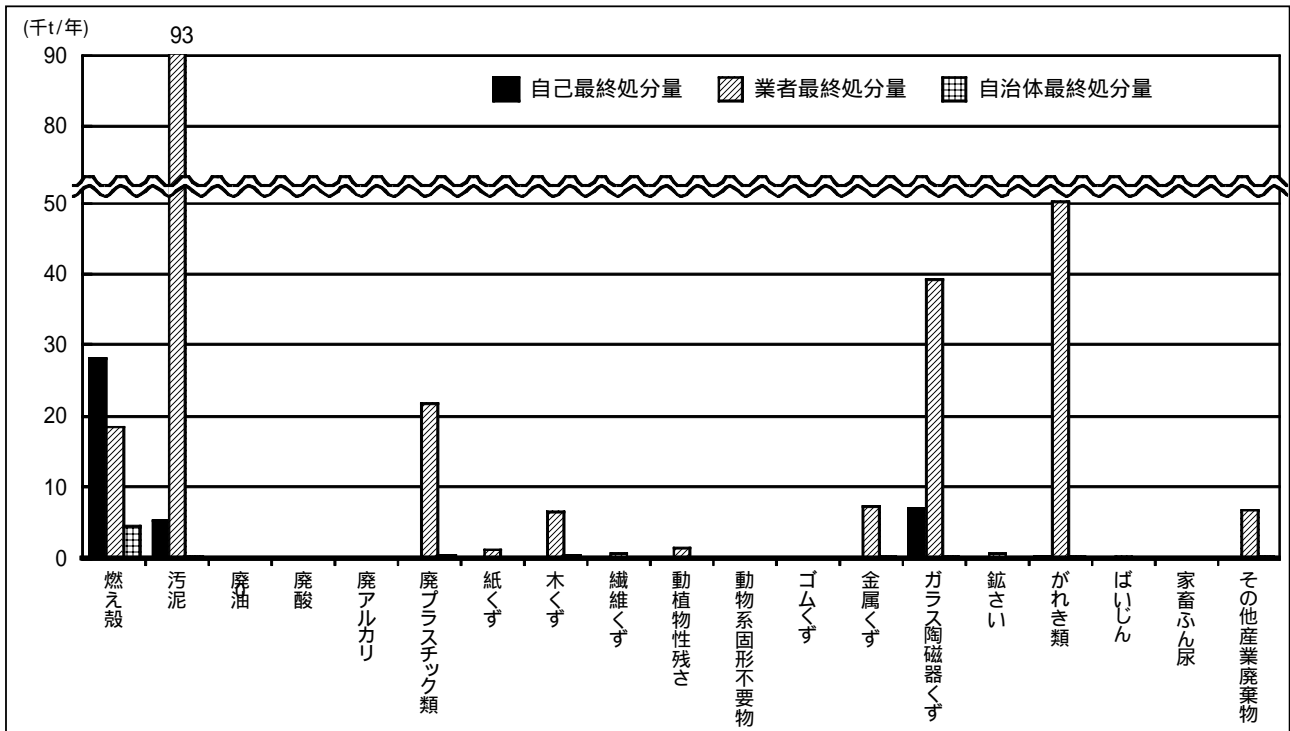
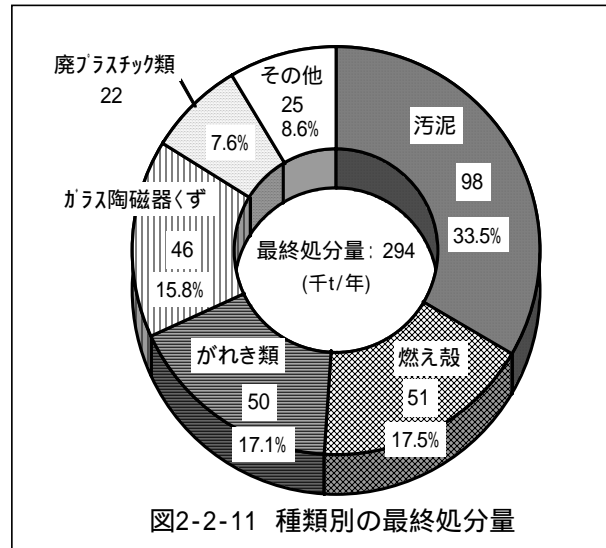


図 2-2-12 最終処分状況

### 第3節 廃棄物処理計画の進捗状況

平成14年3月に策定された宮城県廃棄物処理計画の平成17年度目標では、排出量を11,427千ト以下に抑制し、再生利用率を28.7%、最終処分率を3.3%にしている。

今回の調査結果（平成16年度実績）は、排出量が12,275千ト、再生利用率が29.3%、最終処分率が2.4%であり、排出量は目標に達していないが、再生利用率と最終処分率は目標を達成している。

また、平成15年度実績と比較すると、再生利用率が0.9ポイント低くなり、減量化率が1.1ポイント高くなっている。これは、再生利用率の高いがれき類等の排出量が減少し、減量化率の高い汚泥の排出量が増加したことが影響している。

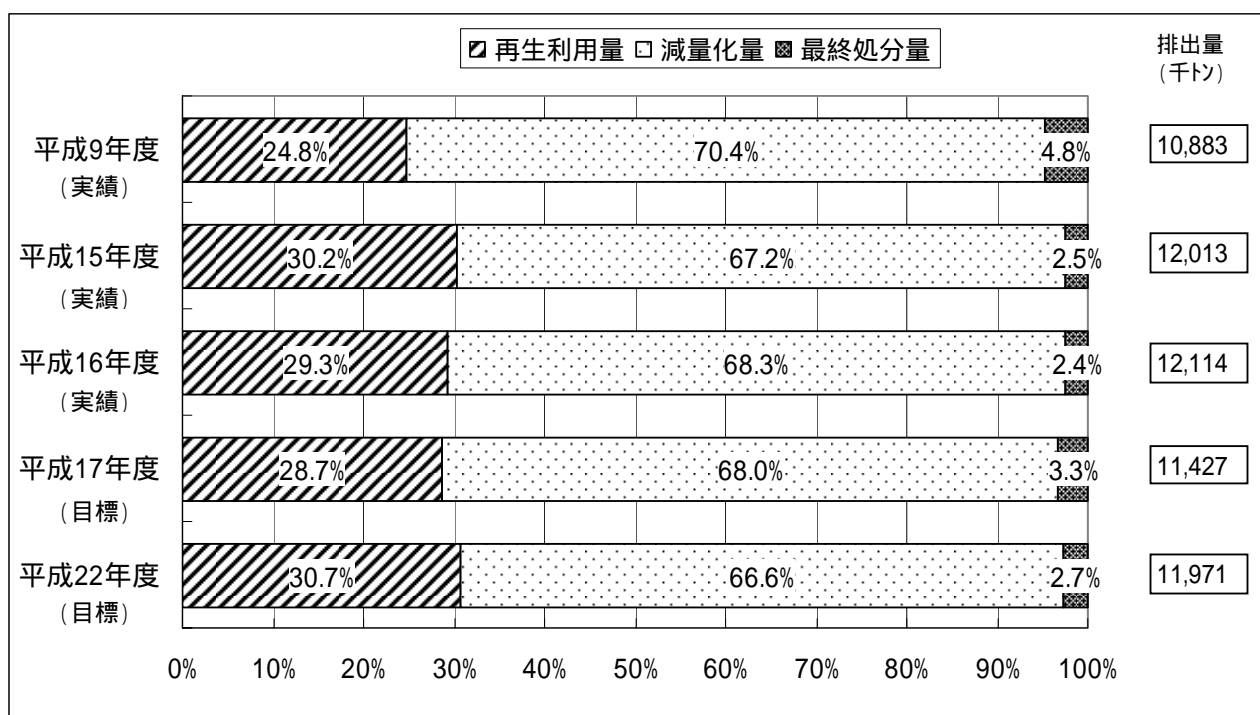


図 2-3-1 廃棄物処理計画の目標の達成状況

表 2-3-1 廃棄物処理計画の目標の達成状況

(単位:千t/年)

	実績				目標
	平成9年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成22年度
排出量	10,883	12,013	12,114	11,427	11,971
再生利用量	2,698	3,631	3,550	3,280	3,675
減量化量	7,659	8,076	8,270	7,770	7,973
最終処分量	526	306	294	377	323

その他量(保管等)は減量化量に含む。